

2024年度(秋学期入学)に出願される方へ

2024年度(秋学期入学)から、Webエントリーサイトをリニューアルし、「出願手続の流れ」が変わります。
本冊子とともに「2024年度(秋学期入学)出願の手引き」もご確認ください。

■ 2024年度(秋学期入学)以降の変更点 ■

1. WebエントリーサイトのURLが変更

2024年度(秋学期入学)に出願するためのWebエントリーサイトURLは、2024年度(春学期入学)以前とは異なりますのでご注意ください。

2. Webエントリーに際してアカウント作成が必要

2024年度(秋学期入学)への出願には「出願用アカウント」の作成(無料)が必要です。

2024年度

学内進学試験要項

関西大学大学院

I 2024 年度入学試験日程および各種手続期間一覧

出願手続は、Web エントリー、入学検定料の納入、出願書類の提出により完了します。

Web エントリーのみでは出願したものとして取り扱いません。

出願に際しては本冊子に記載の内容を十分に確認して手続きしてください。

注 学内進学試験以外の入試種別は別冊子で案内しています。

【春学期入学】

日程	6月募集	7月募集	10月募集
研究科	総合情報学研究科 理工学研究科 社会安全研究科	文学研究科 社会学研究科 外国語教育学研究科 心理学研究科 東アジア文化研究科 ガバナンス研究科 人間健康研究科	法学研究科 文学研究科 経済学研究科 商学研究科 社会学研究科 総合情報学研究科 外国語教育学研究科 心理学研究科(心理学専攻) 社会安全研究科 東アジア文化研究科 ガバナンス研究科 人間健康研究科
Web エントリー期間 入学検定料納入期間 出願書類提出期間	2023 年 4 月 26 日(水)~5 月 11 日(木)	2023 年 5 月 18 日(木)~6 月 1 日(木)	2023 年 8 月 18 日(金)~9 月 1 日(金)
受験票ダウンロード 開始日	2023 年 6 月 5 日(月)	2023 年 7 月 3 日(月)	2023 年 10 月 2 日(月)
試験日	【総合情報学・社会安全研究科】 2023 年 6 月 10 日(土) (予備日) 2023 年 6 月 24 日(土) 【理工学研究科】 2023 年 6 月 11 日(日) (予備日) 2023 年 6 月 25 日(日)	【ガバナンス・人間健康研究科】 2023 年 7 月 8 日(土) (予備日) 2023 年 7 月 22 日(土) 【ガバナンス・人間健康研究科以外】 2023 年 7 月 9 日(日) (予備日) 2023 年 7 月 23 日(日)	【総合情報学・社会安全・人間健康研究科】 2023 年 10 月 7 日(土) (予備日) 2023 年 10 月 14 日(土) 【社会学研究科】 2023 年 10 月 7 日(土) 2023 年 10 月 8 日(日)【※1】 (予備日) 2023 年 10 月 15 日(日) 【社会学・総合情報学・社会安全・人間健康研究科以外】 2023 年 10 月 8 日(日) (予備日) 2023 年 10 月 15 日(日)
合格者発表日	2023 年 6 月 16 日(金) (予備日) 2023 年 6 月 30 日(金)	2023 年 7 月 14 日(金) (予備日) 2023 年 7 月 28 日(金)	2023 年 10 月 13 日(金) (予備日) 2023 年 10 月 27 日(金)
入学手続 I -(1)	関西大学を卒業または関西大学大学院を修了した者は、 入学金<入学登録金>を徴収しないため、この手続は不要です。		
入学手続 I -(2) 入学手続 II	2024 年 2 月 16 日(金)~3 月 15 日(金)		

日程	12月募集	2月募集
研究科	外国語教育学研究科	法学研究科 文学研究科 経済学研究科 商学研究科 社会学研究科 総合情報学研究科 理工学研究科 外国語教育学研究科 心理学研究科(心理学専攻) 社会安全研究科 東アジア文化研究科 ガバナンス研究科 人間健康研究科
Web エントリー期間 入学検定料納入期間 出願書類提出期間	2023 年 10 月 27 日(金)~11 月 10 日(金)	2023 年 12 月 22 日(金) ~2024 年 1 月 12 日(金)
受験票ダウンロード 開始日	2023 年 12 月 4 日(月)	2024 年 2 月 19 日(月)
試験日	2023 年 12 月 10 日(日) (予備日) 2023 年 12 月 17 日(日)	【社会学研究科】 2024 年 2 月 23 日(金・祝)【※2】 2024 年 2 月 24 日(土) (予備日) 2024 年 2 月 25 日(日) 【社会学研究科以外】 2024 年 2 月 24 日(土) (予備日) 2024 年 2 月 25 日(日)
合格者発表日	2023 年 12 月 15 日(金) (予備日) 2023 年 12 月 22 日(金)	2024 年 3 月 1 日(金)
入学手続 I -(1)	関西大学を卒業または関西大学大学院を修了した者は、 入学金<入学登録金>を徴収しないため、この手続は不要です。	
入学手続 I -(2) 入学手続 II	2024 年 2 月 16 日(金)~3 月 15 日(金)	2024 年 3 月 1 日(金)~3 月 15 日(金)

【※1】社会学専攻および社会システムデザイン専攻は10月8日(日)に行う。メディア専攻は10月7日(土)・8日(日)の2日間で行う。

【※2】社会学専攻および社会システムデザイン専攻は2024年2月24日(土)に行う。メディア専攻は2024年2月23日(金・祝)・24日(土)の2日間で行う。

【秋学期入学】

日程	7月募集
研究科	総合情報学研究科
Web エントリー期間 入学検定料納入期間 出願書類提出期間	2024年5月16日(木)～5月30日(木)
受験票ダウンロード 開始日	2024年7月1日(月)
試験日	2024年7月6日(土) (予備日)2024年7月20日(土)
合格者発表日	2024年7月12日(金) (予備日)2024年7月26日(金)
入学手続Ⅰ-(1)	関西大学を卒業または関西大学大学院を修了した者は、入学金<入学登録金>を徴収しないため、この手続きは不要です。
入学手続Ⅰ-(2) 入学手続Ⅱ	2024年8月21日(水)～9月4日(水)

【予備日の設定について】

台風接近による暴風警報発令および交通機関運行停止により試験を延期する場合は、上記のとおり予備日に実施します。その場合は、試験当日7時に本大学院入試情報サイトに掲載します。

【 総 合 情 報 学 研 究 科 】

入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）

総合情報学研究科では、研究者養成ならびに高度な専門知識を有する職業人「情報スペシャリスト」の養成を目的とし、学位授与の方針及び教育課程編成・実施の方針に基づく教育を受けることのできる者として、次に掲げる知識・技能、思考力・判断力・表現力等の能力及び主体的な態度を備えた入学者を広く受け入れます。

- 1 学士課程またはそれに準ずる課程で専攻した専門分野を中心に専門的な知識・技能を修得している。
- 2 豊かな学識と高度な研究能力を備えた研究者及び高度専門職業人への強い意欲を持っている。
- 3 本学の学是である「学の実化(学理と実際との調和)」に基づいた情報学の理論及び応用の研究の実現を目指し、その成果をもって情報社会の進展に貢献できる力を有している。

課 程	専 攻	入学定員
前期課程	社会情報学専攻	15名
	知識情報学専攻	35名

※ 入試種別ごとの募集人員は設定していません。

1 出 願 資 格

[春学期入学]

【6月募集】

関西大学総合情報学部を2023年9月または2024年3月卒業見込みの者

【10月募集・2月募集】

関西大学総合情報学部を2024年3月卒業見込みの者

[秋学期入学]

【7月募集】

関西大学総合情報学部を2024年9月卒業見込みの者

2 出 願 書 類

出願書類	備 考
志願票（提出用）	Web エントリー完了後に印刷したものを提出してください。
志望理由書	研究科所定の用紙
成績証明書	成績証明書は原本を提出してください。 本学に編・転入学した場合は、それ以前の大学等の成績証明書も併せて提出してください。
卒業見込証明書	
研究計画書	概要 1,000 字程度 研究科所定の用紙
写 真 2 枚	最近3カ月以内に撮影されたものを志願票（提出用）と志望理由書にそれぞれ貼付してください。なお、修整・加工したものは不可。 （志願票に貼付された写真は、入学後交付する「学生証」に使用します。）

3 選 考 方 法

書類選考、筆記試験および口頭試問の結果を総合して合否を判定します。

4 試 験 科 目 ・ 試 験 時 間 お よ び 配 点

筆記試験（100点）	口頭試問
専門科目 <志望する課題研究科目について行います>	<提出した志望理由書等により行います>
10:00～11:30（90分）	13:00～

5 志望課題研究科目

(1) 志望理由書の「志望課題研究科目」欄は、「2024年度 総合情報学研究科（前期課程）授業科目および担任者一覧」（41 ページ）、総合情報学研究科ウェブサイトおよび「関西大学大学院 Information2024」（別冊子）を参照のうえ、各自が志望する専攻の課題研究科目を選択してください。

なお、出願書類提出に先立ち、本研究科において勉学を希望する課題研究科目の担当教員に、必ず事前に申し出て相談してください。

(2) 出願後、志望課題研究科目の変更は一切認めません。

注 授業科目および担任者は変更することがあります。
 変更が生じた場合は、本大学院入試情報サイトでお知らせしますので、出願前にご確認ください。
 <https://www.kansai-u.ac.jp/Gr_sch/> (2023年4月現在)

2024年度 総合情報学研究科（前期課程）授業科目および担任者一覧

<社会情報学専攻>

	授 業 科 目	資 格	取 得 学 位	担 任 者
課 題 研 究 科 目	☆ 教育における情報メディア利用			
	★ 情報通信技術（ICT）と新しい教育	教授 教授 准教授	博（教育学）阪大 Ph.D. トロント大	● 黒 上 晴 夫 ● 小 柳 和喜雄 ● 川 島 裕 子
	☆ 情報社会とメディア			
	★ 情報メディアの変容とコミュニケーション	教授 教授	博（人間科学）阪大 博（人間科学）阪大	● 岡 田 朋 之 ● 谷 本 奈 穂 ● 阪 口 祐 介
	★ 情報行動に関する心理学的モデルの構築	教授 教授 准教授	Ph.D. フォリダアランティック大 博（学術）阪大	● 森 尾 博 昭 ● 古 谷 嘉一郎 ● 西 田 晃 一
	☆ 産業情報システム			
	★ 価値創出と協創ネットワークの形成	教授		● 施 學 昌 *
	★ デジタル社会における価値創造	教授 教授 教授 教授 准教授	博（経済）阪大 博（商）関学大 博（国際協力）東大 博（経営学）神大	● 伊佐田 文 彦 ● 古 賀 広 志 ● 齋 藤 雅 子 ● 松 山 美津恵 ● 中 尾 悠利子
	☆ 公共領域における情報			
	★ 公共領域におけるデータベース	教授 教授 教授 教授 教授 准教授 准教授 准教授	博（法）神大 博（工）早大 Ph.D. ハーバート大 博（経済）京大 博（経済学）神大 博（経済）阪大 博（法）京大 博（政治学）神大	● 泉 克 幸 * ● 伊 藤 俊 秀 * ● 地 主 敏 樹 ● 名 取 良 太 ● 大 堀 秀 一 ● 太 田 勝 憲 ● 中 元 康 裕 ● 池 田 峻 岐 ● 宋 財 法 ● 福 島 力 洋

<知識情報学専攻>

	授 業 科 目	資 格	取 得 学 位	担 任 者
課 題 研 究 科 目	☆ ヒューマンコンピューティング			
	★ 人間共生社会におけるインタラクションの学際的分析と構築	教授 教授 教授 准教授 准教授	博（学際情報）東大 博（情報科学）名大 博（学術）東大 博（工）岡山県立大 博（心理学）九州大	● 研 谷 紀 夫 ● 米 澤 朋 子 ● 植 原 亮 裕 ● 瀬 島 吉 裕 ● 佐々木 恭志郎
	★ インタラクションデザインの理論と実践	教授 教授 教授 准教授	工博（阪大） 博（工）阪大 博（工）金沢大 博（工）名古屋工大	● 堀 雅 洋 ● 松 下 光 範 ● 林 貴 宏 ● 山 西 良 典
	★ デジタルメディア技術とアートによる情報表現	教授 教授 准教授	博（工）名大 博（美術）京都市立芸大	● 林 武 文 ● 井 浦 崇 ● 長 谷 海 平
	☆ インテリジェントコンピューティング			
	★ インテリジェントコンピューティングの応用	教授 教授 教授	博（工）阪大 博（工）関大 博（工）東大	● 竹 中 要 一 ● 田 中 成 典 ● 友 枝 明 保
	★ スマートシステムデザインの数理と応用	教授 教授 教授 教授	博（工）阪大 工博（大阪府立大） 博（工）鳥取大 博（工）京大	● 広 兼 道 幸 * ● 林 勲 ● 井 上 真 二 ● 堀 口 由貴男
	★ 社会を変えるモバイルロボティクス	教授 教授	博（工）奈良先端大 博（工）阪大	● 田 頭 茂 明 ● 荻 野 正 樹
	☆ コンピューティングアルゴリズム			
	★ 意思決定支援のためのコンピューティング技法	教授	博（工）阪大	● 浅 野 晃
	☆ 分散コンピューティング			
	★ 通信ネットワーク技術の多元的な研究展開	教授 教授 教授 教授 准教授	博（工）阪大 理博（東北大） 博（工）神大 博（情報科学）阪大	● 堀 井 康 史 ● 今 野 一 宏 ● 桑 門 秀 典 ● 笹 部 昌 弘 ● 小 林 孝 史

注1 ☆印は課題研究分野、★印は課題研究科目を示します。
 注2 ●印は研究指導教員、*印は学生募集を行わない教員を示します。

2024年度 総合情報学研究科（前期課程）課題研究科目一覧

* 印は学生募集を行わない教員を示します。

【社会情報学専攻】

情報通信技術（ICT）と新しい教育（黒上 晴夫、小柳 和喜雄、川島 裕子）

情報通信技術（ICT）の急速な発展により、Society 5.0 と呼ばれる社会が実現しようとしている。その中で、コミュニケーションの仕方や意味が大きく変わり、学習についての捉え方や、学習を支える環境も変革しつつある。これらをふまえて、これからの教育・コミュニケーションのあり方やシステムについて実証的に調査・研究を行う。

1. ICTを基盤とする学習のカリキュラム開発と評価に関する調査・研究
2. グローバル社会におけるコミュニケーション方略と教育に関する調査・研究
3. 学習の意味やメカニズムの変化、学習をうながすシステムについての調査・研究

黒上 (kurokami@kansai-u.ac.jp) 小柳 (oyanagi@kansai-u.ac.jp) 川島 (y_kawa@kansai-u.ac.jp)

情報メディアの変容とコミュニケーション（岡田 朋之、谷本 奈穂、阪口 祐介）

情報メディアの高度化はコミュニケーションや文化のグローバル化をもたらしただけでなく、産業・経済・生活などあらゆる面で大きな変化をうながしている。本プロジェクトでは新たなメディアやコミュニケーション文化の形成の兆しを視野におさめつつ、社会学的観点から以下のような調査・研究を行う。

1. 情報メディア産業の新しい展開
2. 文化、コミュニケーションあるいは社会的行為の様式の変容
3. メディア・イノベーションの現代史的考察

岡田 (okada@kansai-u.ac.jp) 谷本 (tanimoto@kansai-u.ac.jp) 阪口 (yusuke@kansai-u.ac.jp)

情報行動に関する心理学的モデルの構築（森尾 博昭、古谷 嘉一郎、西田 晃一）

我々は社会のなかで様々な情報に囲まれて生活している。本プロジェクトにおいては、情報と人間の心理との関係性に焦点を当て、人が社会のなかでいかなる情報を求めているのか、そして、人はその情報をいかに理解しているのか、また、人は情報を受けとめたことによってどのような影響を受けるのか、さらには、人は他者といかに情報をやりとりしているのかといった問題をとりあげ心理学的な視点から研究を進めていく。

1. 社会的認知に関する心理学的研究
2. 社会的影響に関する心理学的研究
3. 自己認知に関する心理学的研究
4. 対人的コミュニケーションに関する心理学的研究

森尾 (hmorio@kansai-u.ac.jp) 古谷 (kaichiro@kansai-u.ac.jp) 西田 (knishida@kansai-u.ac.jp)

価値創出と協創ネットワークの形成 (*施 學昌)

経済のグローバル化の進展に伴い、経済活動では各国間の相互連動・依存の度合いが益々深まっており、また、ICT の進化とその利活用は企業の事業展開のあり方を根本的に変化させている。本プロジェクトにおいては、新しい価値・事業の創出や産業の高度化を実現するために、経営情報システム論、ネットワーク経営の角度から、ゼロサムを招く「競争」から脱却し、企業や国の壁を越えて情報・知識・技術による「協創ネットワーク」の形成とそのメカニズムに焦点を当て調査・研究を展開する。

施 (shi@res.kutc.kansai-u.ac.jp)

デジタル社会における価値創造

(伊佐田 文彦、古賀 広志、齋藤 雅子、徳山 美津恵、松本 渉、中尾 悠利子)

今日、デジタル化・グローバル化・エコロジカル化などの環境変化や社会構造の変化に直面する現代企業は、データとデジタル技術を活用した組織変革が求められている。本課題研究では、このような変革を「価値創造活動の再編成」として捉え、それを実現していく上での課題を明らかにしていく。このとき、持続的な企業価値向上に資する経営学のさまざまな研究分野をクロスオーバーさせることで、デジタル社会における価値創造の課題を検討していく。

伊佐田 (isada@kansai-u.ac.jp) 古賀 (hiroshi@kansai-u.ac.jp) 齋藤 (msaito@kansai-u.ac.jp)
徳山 (toku_san@kansai-u.ac.jp) 松本 (matsumo@kansai-u.ac.jp) 中尾 (y-nakao@kansai-u.ac.jp)

公共領域におけるデータベース

(泉 克幸、*伊藤 俊秀、地主 敏樹、名取 良太、大堀 秀一、太田 勝憲、中元 康裕、池田 峻、宋 財玠、福島 力洋)

公共的な問題を解決するためには、正確に現状を把握し、適切な方法によって原因を解明することが緊要である。

そこで本研究課題では、政府統計・社会調査データや、白書・法令等の文書情報を活用し、統計分析・シミュレーション・数理分析・質的分析など多様な分析メソッドにより、実態を解明していくことを第一の目的とする。また、散在したり、汎用性が低かったりするデータを収集・加工し、データベースに格納する方法を検討し、実装することを第二の目的とし、これらの目的に沿いながら、社会的諸課題について考えを深めていく。

泉 (izumi@kansai-u.ac.jp) 伊藤 (toshi@kansai-u.ac.jp) 地主 (jinushi@kansai-u.ac.jp)
名取 (t000033@kansai-u.ac.jp) 大堀 (ohori@kansai-u.ac.jp) 太田 (ohta@kansai-u.ac.jp)
中元 (nakamoto@kansai-u.ac.jp) 池田 (s_ikeda@kansai-u.ac.jp) 宋 (song@kansai-u.ac.jp)
福島 (fukusima@kansai-u.ac.jp)

【知識情報学専攻】

人間共生社会におけるインタラクションの学際的分析と構築

(研谷 紀夫、米澤 朋子、植原 亮、瀬島 吉裕、佐々木 恭志郎)

本研究課題では、人間とコンピュータ（あるいはコンピューティングシステム）とのインタラクションについて、認知心理学実験や哲学的・歴史的検討を通じて多角的に基礎研究を行うとともに、実践的なシステム構築を通じて人間とシステム、あるいは人間同士のインタラクションやコミュニケーションのあり方について、メディア科学の立場から理論的研究を行う。これらの研究を通して、社会におけるコンピューティングシステムのありようについて、技術の標準化や倫理観の確立といった文化的側面から検討し、実装につなげるための基礎理論の構築をめざす。

研谷 (ntogiya@kansai-u.ac.jp) 米澤 (yone@kansai-u.ac.jp) 植原 (uehara@kansai-u.ac.jp)
瀬島 (sejima@kansai-u.ac.jp) 佐々木 (k-ssk@kansai-u.ac.jp)

インタラクションデザインの理論と実践 (堀 雅洋、松下 光範、林 貴宏、山西 良典)

本課題研究では、人間とコンピュータとのインタラクション、およびコンピュータを介した人間同士のインタラクションを対象として、知識情報処理の観点からその円滑化と高度化に取り組む。この目標を達成するために、ソフトウェア技術、実世界指向技術、人間中心設計方法論を基盤とする理論構築とその応用・実践を進めていく。個々の学生は、人間の情報処理特性のモデル化、システムやユーザ経験のデザインと評価、いずれかを主なテーマとしつつプロジェクト全体への貢献が求められる。

堀 (horim@kansai-u.ac.jp) 松下 (m_mat@kansai-u.ac.jp) 林 (貴) (t.haya@kansai-u.ac.jp)
山西 (ryama@kansai-u.ac.jp)

デジタルメディア技術とアートによる情報表現 (林 武文、井浦 崇、長谷 海平)

本研究課題は、情報コンテンツにおけるよりよい情報表現の方法を明らかにすることを目的としている。情報の可視化、可聴化、映像やメディアアート作品の制作などデジタルメディア技術とアートによる情報コンテンツの構築および評価を通して、受け手の直感・イメージ・感性などの主観的な情報処理メカニズムの把握と活用方法を明らかにし、それに基づく最適な情報表現について模索する。関連するトピックには、視聴覚情報処理、音楽・映像理論、インスタレーション、ヒューマンコンピュータインタラクション、プロジェクションマッピング、バーチャルリアリティなどが含まれる。

林 (武) (haya@kansai-u.ac.jp) 井浦 (iura@kansai-u.ac.jp) 長谷 (hase@kansai-u.ac.jp)

インテリジェントコンピューティングの応用 (竹中 要一、田中 成典、友枝 明保)

本研究課題では、インテリジェントコンピューティングの重要な部分を占めるソフトコンピューティングとして、人工知能、機械学習、ニューラルネットワーク、遺伝的アルゴリズム、進化的計算、人工生命、データマイニング、データサイエンス、数理モデリング、数理モデルシミュレーション等の基礎理論を習得し、制御、構造設計、スケジューリング、維持管理、テキストマイニング、渋滞緩和、経路設定、錯視作品創作、遺伝子解析に対する実用システムの開発を試みる。さらに、GIS、GPSの応用、CAD、CG技術の開発も行い、物理等の自然科学へのインテリジェントコンピューティングの応用についても研究する。

竹中 (takenaka@kansai-u.ac.jp) 田中 (stanaka@kansai-u.ac.jp) 友枝 (tomoeda@kansai-u.ac.jp)

スマートシステムデザインの数理と応用（広兼 道幸、*林 勲、井上 真二、堀口 由貴男）

インテリジェントコンピューティング技術を基盤として、快適・安全・安心な「スマート社会」を実現するシステムデザインの理論と応用に関する研究を行う。研究対象には、快適さ・楽しさ・しなやかさ・効率性等を高い水準で実現する知的情報処理のためのソフトコンピューティングモデルやAIモデル、システムの信頼性や安全性を評価するための確率・統計モデル、および、これらの実践的応用が含まれる。具体的には、さまざまなセンシングデータから知的な振舞いを生成するための認識・判断・学習・推論プロセスの計算モデル、人の作業を知的に支援する情報デザイン、品質に根ざしたシステム評価等が研究テーマとして挙げられる。

広兼 (hiro Kane@kansai-u.ac.jp) 林 (勲) (ihaya@kansai-u.ac.jp) 井上 (ino@kansai-u.ac.jp)
堀口 (yhorig@kansai-u.ac.jp)

社会を変えるモバイルロボティクス（田頭 茂明、荻野 正樹）

本課題研究では、ロボット技術とモバイルネットワーク技術とを有機的に連携させて、能力強化、並列分散操作、体験共有など、ロボットの自律動作と遠隔操作を組み合わせた新たな価値を創造し、実用可能なモバイルロボットプラットフォームの研究を行う。また、ものづくり・医療分野、サービス分野、防犯・災害対策分野などにおいてモバイルロボットの社会実装を目指し、そこで生じる問題について技術・認知・倫理・経済などの観点から多面的に分析を行う。

田頭 (shige@kansai-u.ac.jp) 荻野 (ogino@kansai-u.ac.jp)

意思決定支援のためのコンピューティング技法（浅野 晃）

コンピュータを用いて意思決定を支援するためには、人間的要素を考慮した計算機の活用方法を考案する必要がある。例えば、人間の知覚能力や特性を考慮した、選択肢の提示やユーザーインターフェイスなどである。本プロジェクトでは、人間的要素を考慮したコンピューティング技法の開発に取り組む。具体的には、色彩や図形の認知の問題を通じて、人間の知覚能力を考慮した速やかな理解を支援する方法などの研究を行う。

浅野 (a.asano@kansai-u.ac.jp)

通信ネットワーク技術の多元的な研究展開

（堀井 康史、今野 一宏、桑門 秀典、笹部 昌弘、小林 孝史）

コンピュータ、携帯型無線端末、センサー等の多種多様なデバイスが接続されたネットワークにより、我々の生活は、その進展とともに大きく変貌を遂げようとしている。本課題研究では、アプリケーション層から物理層までの様々な観点から通信ネットワーク技術の研究開発を行い、より快適な生活の実現に貢献することを目的とする。具体的な研究内容としては、生体における信号処理システムの工学的視点からの解明、代数曲線に関する基礎研究とその暗号・符号理論への応用、量子アルゴリズムを用いた暗号技術の研究開発、数理的手法（最適化、ゲーム理論、機械学習など）に基づく高度情報ネットワーク、情報ネットワークにおけるセキュリティ問題を解決するシステム開発を行う。

堀井 (horii@kansai-u.ac.jp) 今野 (k.konno@kansai-u.ac.jp) 桑門 (kuwakado@kansai-u.ac.jp)
笹部 (sasabe@kansai-u.ac.jp) 小林 (taka-k@kansai-u.ac.jp)

IV 長期履修学生制度について

法学研究科、文学研究科、総合情報学研究科、外国語教育学研究科、心理学研究科（心理学専攻）、東アジア文化研究科、ガバナンス研究科、人間健康研究科では、大学院入学者の多様なニーズに対応し、教育研究の機会を拡充するため、従来の博士課程前期課程における2年コースの他に修業年限を3年とし、授業科目を計画的に履修する「3年コース」を実施しています。この制度の特徴は下記のとおりです。

(1) 履修制限単位

本制度により入学する者には、履修制限単位数を変更します。

【法学・総合情報学・心理学（心理学専攻）・ガバナンス研究科】

コース	1年次	2年次	3年次
2年コース	28	28	—
3年コース	20	20	16

【文学・外国語教育学・東アジア文化・人間健康研究科】

コース	1年次	2年次	3年次
2年コース	30	30	—
3年コース	20	20	20

(2) 3年コースにおける授業科目の配当年次

法学研究科	法政研究コースの専修科目の演習(1)A・(1)Bは1・2年次配当、演習(2)A・(2)Bは3年次配当、高度専門職業人養成コースの演習科目は3年次配当とします。
文学研究科	修士論文の研究指導科目である演習(1)A・(1)Bを1年次配当、演習(2)A・(2)Bを3年次配当とし、修士論文提出は3年次とします。
総合情報学研究科	修士論文の研究指導科目である論文指導を3年次配当とし、修士論文提出は3年次とします。
外国語教育学研究科	指導教員の担当する科目および前期課程演習1a・1bは1年次配当、前期課程演習2a・2bは3年次配当となります。
心理学研究科 (心理学専攻)	心理学セミナー(1)A・(1)Bは1年次配当、心理学セミナー(2)A・(2)Bは3年次配当とし、修士論文の提出は3年次とします。
東アジア文化研究科	修士論文の研究指導科目である演習(1)A・(1)Bを1年次配当、演習(2)A・(2)Bを3年次配当とし、修士論文提出は3年次とします。
ガバナンス研究科	ガバナンス演習Ⅰ・Ⅱを1年次配当、「修士論文」または「特定の課題についての研究成果」の研究指導科目であるガバナンス演習Ⅲ・Ⅳを3年次配当とし、「修士論文」または「特定の課題についての研究成果」の提出は3年次とします。
人間健康研究科	修士論文の研究指導科目である人間健康演習(1)A・(1)Bを1年次配当、人間健康演習(2)A・(2)Bを3年次配当とし、修士論文提出は3年次とします。

(3) 在学期間の途中変更

2年次に進む段階で、各研究科において定められた次の条件を満たす場合は、願い出により、3年コースから2年コースへ変更することができます。その場合、2年次の履修制限単位数は法学・総合情報学・心理学（心理学専攻）・ガバナンス研究科では28単位、文学・外国語教育学・東アジア文化・人間健康研究科では30単位とします。

なお、対象者には1年次の秋学期（秋学期入学者については1年次の春学期）にインフォメーションシステムにてお知らせします。

ただし、2年コースから3年コースへの変更はできません。

法学研究科 文学研究科 外国語教育学研究科 心理学研究科 （心理学専攻） 東アジア文化研究科 人間健康研究科	1年次終了時に修士論文の提出要件である20単位を修得していること
総合情報学研究科	1年次終了時に修士論文の提出要件である16単位を修得していること
ガバナンス研究科	1年次終了時に「修士論文」または「特定の課題についての研究成果」の提出要件である20単位を修得していること

(4) 在学年限

在学年限は2年コース、3年コースとも4年です。

(5) 修了要件

修了要件は2年コース、3年コースともに同じです。3年コースでは、2年コースと同じ修了要件を3年かけて履修します。詳細は入学時に配付される「大学院要覧」を参照してください。

(6) 学費

学費については、90～91ページの「7 2024年度 学費」を参照してください。

なお、在学期間を途中で変更する場合は、3年次に納入する授業料を合わせて、2年次に納入することが必要となります。（正確な納入金額については、手続き時にご確認ください。）

長期履修学生制度により3年コースを希望する場合は、Webエントリーの際に「長期履修学生制度」欄で「3年コース」を選択してください。どちらのコースを選択しても合否判定には関係ありません。

なお、合格後に選択したコースの変更を希望する場合は、春学期入学：2024年1月12日（金）まで、秋学期入学：2024年7月26日（金）までに、大学院入試グループまでその旨をご連絡ください。

また、2月募集の合格者は、入学前にコース変更を申し出ることはできませんのでご注意ください。